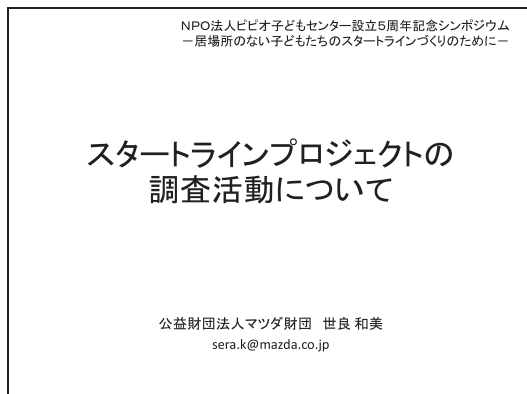


1-2. 「スタートラインプロジェクト活動報告」

公益財団法人マツダ財団 世良 和美

スライド



報告要旨

マツダ財団の世良和美と申します。

私どもマツダ財団は、ピピオ子どもセンターさんと連携で「スタートラインプロジェクト」を立ち上げ、活動しております。

今日は、そのご紹介をさせていただきます。



報告者 世良 和美

報告内容

1. スタートラインプロジェクトとは

概要

経緯

2. 活動事例報告

他団体の事例調査

3. 今後への提案

広島での可能性

2

報告内容は、

1. スタートラインプロジェクトとは何か、その概要とこれまでの経緯

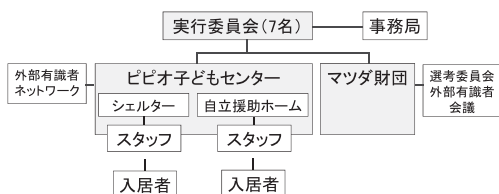
2. 活動事例報告として、参考になりそうな他団体の事例調査結果をご紹介します

3. このプロジェクトを通じて考えた、この活動の更なる発展のための提案として、広島でこんなことができるのではないかという可能性をお話します。

1. スタートラインプロジェクトとは

概要

ピピオ子どもセンターが支援する被虐待児等及び彼らを支えるスタッフ等の成長のための事業を実施する
(年間予算100万円)



3

さて、まずスタートラインプロジェクトとは何か。ピピオ子どもセンターさんが支援をしている被虐待児等、及び、彼ら彼女らを支えるスタッフ等が成長していこうとされる、その手助けのための事業を実施するというものです。

この図のように、ピピオ子どもセンターさんの関係者4名と、マツダ財団の3名で、7名の実行委員会を構成しています。

特に事務所などを構えているわけではありませんが、実行委員会を開催したり、電話やメールで連絡を取りあって、成長のためのプロジェクトを進めています。

1. スタートラインプロジェクトとは		
概要		
(1) 子どもたちの成長 被虐待児等の成長を支援するプログラム	(2) 周囲の人々の成長 スタッフの能力開発を支援するプログラム	(3) 組織の成長 活動基盤の充実
被害回復 癒しのプログラムとの連携・カウンセリングの充実 生活習慣の改善 日記実践、コミュニケーション能力の向上 自己肯定感の涵養 座学(家庭教師) 体験を通じた「学習」の支援(スポーツ大会、音楽活動、野外活動、マナー講座、企業体験等) 自立への準備 就職活動、資格取得等	講座・セミナー・研究会等の開催 スタッフ人材育成モデルの研究、スタッフ間のコミュニケーションの活性化 他団体の視察、他機関のスタッフとの交流	広報活動の充実 ちらし、パンフレット、報告書等の作成、広報誌・ホームページの充実 普及活動 調査・分析、活動結果の体系的整理等を通じて、知見の普及・社会還元を図る。

プロジェクトの活動内容ですが、「成長」をテーマにしており、柱は3つあります。

子どもたちの成長，周囲の人々の成長，組織としての成長，です。

今日は，この中から，他団体の視察をして調査・分析した結果から，お話したいと思います。

1. スタートラインプロジェクトとは					
自動車メーカーの企業財団との比較					
	トヨタ財団	日産財団	本田財団	スズキ財団	マツダ財団
形態	研究助成 事業助成	事業助成 講座・セミナー 奨学助成	表彰 シンポジウム	研究助成 事業助成	研究助成 事業助成 連携事業 ・広島大学 ・広島市文化財団 ・ピピオ
テーマ 分野	新しい価値 ・地球規模/世代を超える課題 ・多文化社会(アジア) ・地域振興・仕事づくり ・東日本大震災支援 ・NPO基盤強化	人材育成 ・グローバルリーダー養成 ・小中学校の理科教育&理科教員養成 ・新興国学生奨学金	エコテック/ロジ(連携技術) ・本田賞 ・国際シンポジウム開催 ・アジア学生への奨励金	科学技術 ・科学技術研究	科学技術と青少年 ・科学技術研究 ・青少年育成 ・市民活動支援 ・理科教育 ・小学生の感動体験 ・被虐待児等

ところで，マツダ財団は，自動車メーカー マツダ株式会社の出損によって設立された企業財団ですが，なぜ私どもが，被虐待児という課題に取り組んでいるのか。

これは，自動車メーカーが設立した財団の事業内容の比較です。各社それぞれに，テーマを掲げて研究助成，事業助成を行っています。

テーマには，「新しい価値」「人材育成」「科学技術」といったものが多い中，「被虐待児…」という活動は，やや異色です。

実は，マツダ財団も，1984 年の設立以来，科学技術と青少年というテーマで活動をしてきました。

しかし，2009 年頃の事です，本当にあらゆる子どもたちに目を向けているか，我々は，自問自答を始めました。

有識者に，「子どもたちをめぐる喫緊の社会的課題は何か」と問いかけもしました。

その結果，児童虐待という問題に辿りつきました。実は，当時のマツダ財団の事業に参加してくれるのは，保護者から慈しみ育てられている子どもたちがどうしても中心になっていました。

しかし，困難を抱えている子どもたちのために何かしたい，でも，彼らにアクセスするすべがない。そんな時に，ちょうど設立に向かって動き始めたピピオさんの存在を知り，すぐに理事長の鵜野先生に会いにゆきました。2010 年 9 月のことです。

もしこの出会いが無ければ，われわれは，児童虐待という問題の前に，今も途方に暮れていたかもしれ

1. スタートラインプロジェクトとは			
経緯			
年度		調査テーマ	調査活動
2011	ビビオ発足 調査・研究 事業 1年目	スタートラインプロジェクトと しての取り組みの方向性と 視点を定める 「人の成長、組織の成長」	ヒアリング (社)カリヨ子どもセンター (特活)ブリッジフォースマイル (特活)ビビオ子どもセンター 他
2012	調査・研究 事業 2年目	事業遂行上のボトルネック についての検討 「退居時の支援」	ビビオでの活動から得られる知見を フィードバック 文献等調査 実行委員会での協議
2013	連携事業 「スタートラ インプロジェ クト」1年目	退居時の支援	ヒアリング 職親プロジェクト (特活)ワーカーズコープ
2014	連携事業 「スタートラ インプロジェ クト」2年目	退居時の支援	ヒアリング (特活)青少年就労支援ネットワーク静岡 「スタートラインプロジェクトNPOインターン シップ(仮)」の構想

6

2. 活動事例報告			
他団体の事例調査 ～支援対象者を社会にどう繋げていくのか			
団体名	ブリッジフォースマイル	職親プロジェクト	青少年就労支援 ネットワーク静岡
対象	児童養護施設	少年院等	ニート・引きこもり
組織 概要	東京都千代田区大手町 (パソナ管内) 2004年発足 理事長 林 恵子 氏 (元パソナ社員)	東京都港区赤坂 (日本財団内) 2013年発足 代表 中井 政嗣 氏 (お好み焼き千房社長)	静岡県静岡市駿河区 2002年発足 理事長 津富 宏 氏 (静岡県立大学教授)
活動 内容	児童養護施設から社会 に巣立つ子どもたちの自 立支援	少年院等の出所者への 就労体験提供、就労支 援	一般市民がボランティア として地域の“働きたいけ れども働けない”若者に 寄り添う

出所: Web 各団体の報告書等をもとに報告者作成 7

ません。

ピピオさんとの連携事業は、マツダ財団の守備範囲を、大きく広げてくれました。

現在私どもは、「20代30代の若者に希望を…」という新たなテーマにも取り組みを始めたが、他の財団とまた一味違う取り組みが、もしもできているとしたら、それは、ピピオさんとの出会いが一つの大きなきっかけであったと思います。

さて、スタートラインプロジェクトのこれまでの経緯です。

こうして2011年頃からピピオさんと一緒に、2年間、調査・研究として活動し、2013年から正式に連携事業「スタートラインプロジェクト」として発足しました。今年で3年目を迎えます。

毎年、調査テーマを決め、これに沿って文献調査やヒアリングなどを行ってきました。

その結果は、毎年報告書にまとめています。

今日はこの活動の中から、子どもたちがシェルターや自立援助ホームを出て社会に出るとき…、つまり退居時の支援、に目を向け、他県で行われている試みについて調査した結果の一部をご報告します。

今日ご報告するのは、3つの団体です。

東京のブリッジフォースマイル。

日本財団を中心に構成された職親プロジェクト。

青少年就労支援ネットワーク静岡。です。

3つの団体の活動の対象者は、児童養護施設、少年院等、ニート・引きこもりと、事情は全く異なりますので、そこはきちんとわきまえて考えなくてはなりません。

しかし、共通しているのは、困難を抱えた若者を、社会にどう繋げていくのかということに、専門家に加え一般市民までもが一生懸命取り組んでいる、ということです。

2. 事例① ～ブリッジフォースマイル

児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちの自立支援

巣立ちプロジェクト



生活知識と必需品の提供



理事長 林 恵子 氏

アトモプロジェクト



人間関係の構築、交流会

写真：ブリッジフォースマイルHP <http://www.b4s.jp/> 8

2. 事例① ～ブリッジフォースマイル

カナエール



進学をかなえるスピーチコンテスト
やトレーニング

ジョブプラクティス



働くイメージと経験

●POINT

- ・社会人ボランティアがメンターに
- ・多彩なプログラム&ボランティアメニューを明示
- ・企業の協力
- ・仕組みの構築

写真：ブリッジフォースマイルHP <http://www.b4s.jp/> 9

まず、東京のブリッジフォースマイルです。

児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちの自立支援を行っています。

理事長の林恵子さんは、もとパソナの社員です。

巣立ちプロジェクト。児童養護施設の子どもたちが、巣立った後自活できる知識を学ぶ、これはお料理教室の様子です。

アトモプロジェクト。施設から卒業した後も、人間関係が切れないように、卒業生のための交流会、これはバーベキュー大会の様子です。

カナエール。進学を叶えるスピーチコンテスト、準備段階のトレーニングもします。これは、スピーチする若者を、サポーターの3名が見守っている様子です。

また、働くイメージと経験をインターンシップで学ぶジョブプラクティス。これは、リッツカールトン東京でホテルの仕事を学んでいる様子です。

ブリッジフォースマイルの活動のポイントは、

- ・社会人ボランティアがメンターになって、長期的に寄り添うこと
- ・多彩なプログラム&ボランティアメニューをホームページで体系的に明示していること。例えば、ボランティアになると、何をどの程度しなければならないか、リスク面も含め、ホームページで細かく情報公開されています。
- ・企業にも、物品や資金の寄付、就労体験先など、色々な方法で協力を取り付けています
- ・そして、仕組みの構築。プロジェクトを掲げ、仕組みを作り、システムチックに活動し、ホームページでどんどん情報公開していく

この、しっかりした仕組みと、情報公開が、企業やボランティアが安心して活動に参加できる一つの大きな要因だと考えられます。

2. 事例② ～職親プロジェクト

少年院等の出所者への就労体験提供、就労支援



職親企業の会議



面接する「信濃路」の西平社長

写真：日本財団ブログ <http://blog.canpan.info/nfkouhou>10

2. 事例② ～職親プロジェクト



代表「千房」の中井社長

● POINT

- ・経営者の理解
- ・少年院等との密な情報交換
- ・日本財団による支援金の提供や広報
- ・仕組みの構築

職親企業の社長たちの声

「うちでは、12月末に18歳の少年を採用した。3か月経つ。地域清掃など心のケアも兼ねて行っている。ただこの1か月、小さな嘘を重ねるようになった（掃除していないのに「しました」など）。なぜ仕事しているのかなど、きちんと向き合って説明していきたい。」

「うちでは、今一人働いている。彼は、社会に慣れていない。しかし、今は吹っ切れた感じで、仕事人の顔になってきた。私も、2週間に一度、一緒に晩ご飯を食べる。」

写真：日本財団ブログ <http://blog.canpan.info/nfkouhou>11

2 つめの事例は、日本財団が中心に全国の企業へネットワークを広げている職親プロジェクト。

少年院等の出所者への就労体験提供、就労支援を行っています。

職親企業が一堂に会しての会議を定期的に行き、本音で情報交換を行っていました。

こちらは、そば・うどんチェーンを展開する「信濃路」の西平 都紀子社長です、少年院にいるうちから、就業の道を付けるために面接をしています。

職親企業の多くは、オーナー系の中小企業で、社長さんが腹を括って正に親となり衣食住から仕事まで面倒を見るといえるものです。

リーダーは、お好み焼き「千房」の中井社長です。私が参加させてもらった会議で聞かれた、職親社長たちのお声ですが、

「うちでは、12 月末に十代後半の少年を採用した。3 か月経つ。地域清掃など心のケアも兼ねて行っている。ただこの 1 か月、小さな嘘を重ねるようになった（掃除していないのに「しました」など）。なぜ仕事しているのかなど、きちんと向き合って説明していきたい。」

「うちでは、今一人働いている。彼は、社会に慣れていない。しかし、今は吹っ切れた感じで、仕事人の顔になってきた。私も、2 週間に一度、一緒に晩ご飯を食べる。」

など、本音で情報交換しあっていました。

この活動のポイントは、

- ・経営者の理解。裏切られても見捨てない、腹を括った社長さんたちの存在です。
- ・少年院等との密な情報交換
- ・日本財団による支援金の提供や広報
- ・そして、ここでも、仕組みの構築、少年院の中にいるときから始まる一貫通貫のプログラムや、経営者たちのネットワーク

といった仕組みが、

「元の道には絶対に戻らせない」というきめ細かい網となって機能していると考えられます。

2. 事例③ ～青少年就労支援ネットワーク静岡

一般市民がボランティアとして地域の“働きたいけれども働けない”若者に寄り添う「静岡方式」

サポーター養成研修



各グループに参加してくれた若者の「ストレンクス(強み)探し」

若者とサポーターの体験談



家庭菜園の手伝いや、薪割りなどをする中で体力を付けようと、ランニングを始めた。「〇〇さんと一緒にやらう」と言った。今では毎日8km走っている

写真： 青少年就労支援ネットワーク静岡HP <http://www.sssns.org/> 12

事例の 3 つ目は、青少年就労支援ネットワーク静岡。

一般市民がボランティアとして地域の“働きたいけれども働けない”若者に寄り添う、静岡方式という仕組みを構築しています。

これは、一般市民に、若者のサポーターになってもらう養成講座の様子。

各テーブルに当事者の若者を一人配置し、彼のストレンクス・強みをみんなで探したり、実際にサポートを受けた若者とサポーターが並んで体験談を話します。

私が参加させていただいた回では、引きこもりがちだった若者が、サポーターの方と一緒に家庭菜園の手伝いや、薪割りをする中で、もっと体力を付けようとランニングを始めた話を紹介していました。「“〇〇さんと一緒なら、僕、やるよ”と自分で決めた。今では毎日 8 km 走っている。」と話していました。

また、若者＋社会人・学生ボランティアが集まり、宿泊セミナーなども行っています。

これは、理事長の津富先生です。

私が聞いた、実際に活動されている市民サポーターのお声は、

- ・自分にできることを無理なくやる。やれることをやるしかない。
- ・最初は不安だった。すごい責任。就職もさせないと...と。でも、あるとき、「してあげよう」ではなく、何かを一緒にしていただく、お菓子を一緒に買いに行こう、でも良いのだと気付いた。

と話されていました。

この活動のポイントは、

- ・一般市民のボランティアが付き合う（日々の生活や職探しまで）、まずはただ付き合えば良いというハードルの低さ、そこから生まれる、普通の息の長い人間関係
- ・そして、半年間のプログラム「静岡方式」、これを、サポートを受ける若者はやりとげて、その後

2. 事例③ ～青少年就労支援ネットワーク静岡

若者就労支援セミナー



若者＋社会人・学生ボランティアが集まり、宿泊セミナー



理事長 津富 宏教授

市民サポーターの声

・自分にできることを無理なくやる。やれることをやるしかない。
・最初は不安だった。すごい責任。就職もさせないと...と。でも、あるとき、「してあげよう」ではなく、何かを一緒にしていただく、お菓子を一緒に買いに行こう、でも良いのだと気付いた。

●POINT

- ・一般市民のボランティアが付き合う(日々の生活や職探しまで)
- ・半年間のプログラム「静岡方式」の構築

写真： 青少年就労支援ネットワーク静岡HP <http://www.sssns.org/> 13

2. 活動事例報告 ～まとめ			
事例①～③の強みは、人と仕組み			
POINT	ブリッジフォースマイル	職親プロジェクト	青少年就労支援ネットワーク静岡
人	・社会人ボランティアがメンバーに	・経営者の理解	・一般市民ボランティアが付き合う(日々の生活や職探しまで)
仕組み	・多彩なプログラム＆ボランティアメニュー	・職親企業のネットワーク ・退所前からのルール	・半年間のプログラム「静岡方式」の構築
モノ・カネ	・企業の寄付	・日本財団による支援金	
情報	・HPやコンテストを通じた情報発信	・少年院等との密な情報交換 ・日本財団による広報	・HP等を通じた情報発信
モノ・カネ・情報が、人と仕組みを支える			
出所：報告者作成 14			

3. 今後への提案
調査を通じて見てきたこと 人と仕組みの大切さ 広島での可能性は... ・ピピオ子どもセンターの関係者による試み ・“こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネットワーク結成の試み(2015年～) (構成団体) ・NPO法人CAP広島 ・NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション ・NPO法人ピピオ子どもセンター ・子ども虐待ホットライン広島 ・公益社団法人広島県社会福祉士会子ども家庭支援委員会
15

もサポーターと長く付き合っていくわけですが、このスピーディーな仕組みに若者を放り込んで息もつかせず走らせる、という仕組みを構築していることだと考えられます。

以上3つの事例を見てきましたが、これらを総括すると、その強みは、「人と仕組み」であるとまとめることもできます。

各事例で挙げたポイントを、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源から整理すると、勿論、モノ・カネ・情報もしっかりと保有していますが、まずは「人と仕組み」が活動を動かしていると考えられます。

まず、「人」については、社会人ボランティア、中小企業の経営者、一般市民ボランティア…と、いわば、社会で普通に一生懸命生きている人たちであって、「目の前の若者を見過ごせない」という思いを持った人たち、と言えるでしょう。

また、「仕組み」については、しっかりとした支援のスキームを構成し、社会に繋げていくプロセスに沿った、多彩なプログラムが用意されています。

支援の過程で支援者が直面する不安や困難を解決するための手だても講じられていました。

つまり、「人と仕組み」でできることはまだまだいっぱいあるのだ！と言えるでしょう。

以上の調査結果を踏まえて、ピピオの活動の今後の更なる発展のためにできることを考えてみたいと思います。

人と仕組み、これをてこに、広島で発展させていく可能性はあるでしょうか。

たとえば、ピピオさんの関係者、弁護士さんや、家庭裁判所の家事調停員の有志の方たちで結成された「広島少年友の会」の方が、ピピオの卒業生を社会に繋げていくために、既に奔走されています。

また、ちょうど1年前に広島でキックオフされた「こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！」ネットワーク、これらの団体が中心になって構成さ

3. 今後への提案

(案)「スタートラインプロジェクトNPOインターンシップ」

目的

様々な事情で行き場のない若者や子どもたちに就業体験の機会を提供し、実際の就業、自立へとうまくつなげていくため

方法

子どもの意思に基づき、市民活動団体での就業体験(インターンシップ)を行う

16

3. 今後への提案

インターンシップで期待する効果

①子どもたちが、事前&事後学習での自己省察や就業体験を通じて、働くということ、社会の基本的なルールや常識、対人コミュニケーション経験や協力等を学んでいく。
→社会の基本的なルールに慣れる

②非営利団体での就業体験を通じて、懐の深い人たちから徐々に学んでいく。
→「失敗してもやり直せる！」

③上記の経験を通じて、自尊感情を育てる。
→「自分も役に立った！」

17

れたものですが、こうして、子どもたちを人のネットワークで支えるという試みも始まっています。

さらに、スタートラインプロジェクトでも、人と仕組みでピピオの子どもたちを社会に繋げていく方法は無いかな、検討してみました。

そこで、今日は、まだアイデアでしかありませんが、「スタートラインプロジェクトNPO インターンシップ」を提案してみたいと思います。

目的は、子どもたちに就業体験の機会を提供し、実際の就業、自立へとうまくつなげていくため、方法としては、子どもの意思に基づき、NPO等の市民活動団体での就業体験(インターンシップ)を行うというものです。

インターンシップで期待する効果ですが、ピピオの子どもたちは、様々な理由で、社会の基本的なルールに慣れていなかったりして、退居時に社会に出て行くためのハードルが、彼ら彼女らにとって、想像以上に高い状況にあります。

そこで、

①子どもたちが、事前&事後学習での自己省察や就業体験を通じて、働くということ、社会の基本的なルールや常識、対人コミュニケーション経験や協力等を学んでいく。

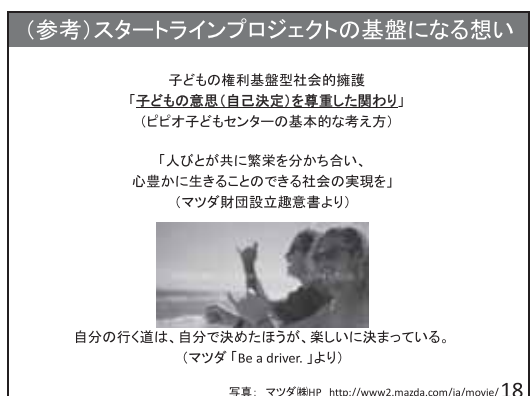
これにより、社会の基本的なルールに徐々に慣れていくことが期待されます。

②非営利団体での就業体験を通じて、懐の深い人たちから徐々に学んでいく。

非営利活動に携わる人たちの姿に学びつつ、人材育成の観点から厳しくもあたたかい指導を受けることができれば、ピピオの子どもたちが失敗して自信喪失して「もうだめだ」とあきらめるのではなく、「失敗してもやり直せる!あきらめない」ということを学んでくれるのではないかと思います。

③上記の経験を通じて、自尊感情を育てる。

「ありがとう」と言われた経験、褒められた経験が



ご清聴ありがとうございました

極端に少ない、「自分なんて…」と、自尊感情が持てない子どもも、非営利活動を通じて「自分も役に立った!」と思える経験ができるのではないかと思います。

まだ試案レベルではありますが、もしも、やってみたいという子どもが現れ、引き受けましょうという団体さんが現れれば、試みてみたいと思っておりますので、ぜひ今日のアンケート用紙に、「引き受けてもいいよ」のマークをつけてあげてください。

最後に、もしかしたら、今日お越しのみなさんで、「へえ、自動車メーカーのマツダがこんなことやってるんだ」と思われた方がおられましたら…

そうです、マツダってこんな会社なんです。

ピピオさんが大事にしているのは、子どもの意思(自己決定)を尊重した関わりです。

そしてマツダは、「自分の行く道は、自分で決めたほうが、楽しいに決まっている。」…これは、今マツダが発信している「Be a driver.」というメッセージの一節なのですが…

「自分の人生の、主人公になろう。

自分の行く道を、自分の意志で選ぶ人になろう」と呼びかけています。

子どもたちが自分の人生の主人公になることを、スタートラインプロジェクトは支援していきます。